

北のスポーツホホラ

スポーツをする楽しみ
見る楽しみ
支える楽しみ

発行 / 認定NPO法人 ランナーズサポート北海道



ゴールしたアスリートを拍手で迎えるボランティア

知的障害への理解深めるボランティア スペシャルオリンピックス北海道・東北ブロック冬季大会

知的障害のある人のスポーツを通じた社会参加を目指すスペシャルオリンピックス (SO) 日本の北海道・東北ブロック冬季大会が2月23、24日、札幌市のFu'sスノーエリア (アルペンスキーとスノーボード) と、江別市の飛鳥山公園競技施設 (クロスカントリースキーとスノーシューイング) で開かれました。

知的障害のあるアスリート (SOでは選手をこう呼びます) をしっかりケアして大会を運営するため、この大会では約70人の選手に対し、100人を超すボランティアが集まりました。受付や記録、コース整理といった一般のスポーツ大会ボランティア業務に加えて、コースではアスリートと一緒にスキーを履き、ともに行動をするアスリート支援という、スペシャルオリンピックスならではの活動もあります。

ボランティアを通じて知的障害のある人たちとの交流を深め、互いを理解し合う場となることも、スペシャルオリンピックスの大きな目的のひとつです。

2020年2月には、夏冬を通じて北海道で初めてとなる第7回SO日本冬季ナショナルゲーム (札幌、江別、岩見沢の3市5会場) の開催が決まっています。全国から集まるアスリートに対し、ボランティア募集数は2,000人の予定です。(2面へ続く)

目次

- 東京マラソン・ボランティア活動報告 ③
- 東京2020に予定上回るボランティア応募 ④
- MICEボランティアセミナー開催 ④